

日本英語教育学会論文集用ワードテンプレート (タイトル) —論文形式 (サブタイトル)—

英語 花子¹ 教育 太郎² 情報 次郎²

¹ 稲田大学情報文化学部 〒123-4567 東京都千代田区秋葉原 2-4-6

² 大阪出版株式会社研究開発部 〒456-7890 大阪府大阪市中央区難波 2-3-8

E-mail: ¹hanako@inada.jp, ²{taro | jiro}@osaka-publishing.co.jp

概要 本ファイルは Microsoft Word による日本英語教育学会論文集用のテンプレートファイルです。

DECODE Word Template (Title) —The Format of Report (Subtitle)—

Hanako EIGO¹ Taro KYOIKU² and Jiro JOHO²

¹ Faculty of Information and Culture, Inada University 2-4-6 Akihabara, Chiyoda-ku, Tokyo 123-4567
Japan

² R&D Division, Osaka Publishing 2-3-8 Namba, Chuo-ku Osaka-shi, Osaka 455-7890 Japan

E-mail: ¹hanako@inada.jp, ²{taro | jiro}@osaka-publishing.co.jp

Abstract This file describes the general formatting guidelines for papers to be submitted to proceedings of JELES annual meetings.

1. 原稿作成

1.1. タイトルその他

原稿の 1 ページ目上部に、タイトル、著者氏名、所属、住所、メールアドレス、日本語の概要、英語による概要を記入します。

なお、本文を英語で記載する場合には、英語による概要のあとに日本語による概要を続けます。

1.2. 本文

本文は上記の「タイトルその他」に続けて改ページせずに記入します。このテンプレートファイルを用いて作成するか、あるいは、この書式に従って作成してください。

1.3. ヘッダ・フッタ

1 ページ目のヘッダは変更しないでください。フッタの Copyright 2012 に続けて著者の氏名を記載します。

1.4. フォント・サイズ

日本語は明朝体 9-10 ポイントを、英語は Century または Times New Roman 9-10 ポイントを標準とします。タイトル・セクションの見出しなどは適宜大きめのフォントを使用します。日本分の句読点は全角の「。」・「、」に替えて「。」・「、」を使用することもでき

ますが、一つの論文の中では統一してください。

2. 原稿枚数

原則として 6-8 ページ程度で作成して下さい。ページ数が多くなりそうな場合、少なくなりそうな場合は個別に相談願います。1 ページの行数・文字数を調整することは可能ですが、あまり極端に詰めないようにご留意ください。上下左右のマージンは変更しないでください。

3. 著作権

論文集の編集著作権は日本英語教育学会に帰属することとしますが、著者が各自の論文の原稿を独自に公開することを妨げません。それぞれの論文の著作権は著者に帰属することとします。著者が他の論文集・定期刊行物等に論文集に掲載された論文を元に修正・改変した原稿を投稿することを日本英語教育学会として妨げることはありませんが、重複投稿・多重投稿についての制約について投稿先の条件等にも従うとともに、日本英語教育学会の論文集にすでに掲載されている旨を謝辞ならびに文献リストなどにて明示することが期待されています。

著者, "論文題目: サブタイトル,"

日本英語教育学会第 42 回年次研究集会論文集, pp. ??-??, 日本英語教育学会編集委員会編集, 早稲田大学情報教育研究所発行, 2012 年 6 月 30 日.

This proceedings compilation published by the Institute for Digital Enhancement of Cognitive Development, Waseda University.

Copyright © 2012 by GivenName FamilyName.

All rights reserved.

4. 発行予定日

論文集の発行は 2011 年度内の予定です。

5. 問合せ先

E-mail : jeles-editors@decode.waseda.ac.jp

文 献

書誌情報の記載については、原則として以下に従うこととしますが、煩瑣となる場合もあり、常識の範囲で簡略化した表記を取り入れることを妨げません。

SIST 02 科学技術情報流通技術基準・参照文献の書き方 / Description of Bibliographic References
http://sist-jst.jp/handbook/sist02_2007/main.htm

- [1] 村田年, “多変量解析による文章の所属ジャンルの判別: 論理展開を支える接続語句・助詞相当句を指標として,” 統計数理第 48 巻第 2 号, pp. 311-326, 2000.
- [2] J. L. Austin, *How to Do Things with Words*, London, Oxford University Press, 1962.
- [3] P. Grice, “Logic and conversation,” in P. Cole & J. Morgan (Eds.): *Syntax and Semantics, 3: Speech Acts*, New York: Academic Press, 1975.
- [4] 北弘志, “第 5 章 3 節 4 技能の実際的指導法,” 新英語科教育の研究 (改訂版), 片山嘉雄・遠藤栄一・佐々木昭・松村幹男 (編), pp. 216-226, 大修館書店, 1994.